

きいて・めもして・こたえよう

きょう土の いじんの話

なまえ
名前

聞くめあて いじん・古田さんが「いつの人か（年代）」と、「どんなことをしたか」を、分けてメモしましょう。

おとさない言葉：年代・したこと・数字

放送が終わったら、開いて問題に答えましょう。

(1) 古田さんが生まれたのは、今からどれくらい前ですか。

(2) 古田さんは、村の人たちのために、何を作りましたか。

(3) 水路を完成させるのに、どれくらいの年月がかかりましたか。○をつけましょう。

ア 一年

イ 五年

ウ 十年

(4) 古田さんについて、もっと知りたいことを、一つ「しつものの文」で書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声流す）。読む回数：2回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、この地方で生まれた、いじん、古田せんいちさんについて話します。古田さんは、今から百年より前に、みんなの役に立つ大きな仕事をした人です。

古田さんが生まれたのは、明治のはじめ、今から百五十年ほど前のことです。当時、この村では、雨が少ないと、田畑の水が足りなくなり、米がとれないことがありました。人々は、たいへん苦しんでいました。

そこで古田さんは、遠くの川から水を引く、長い水路を作ることを考えました。十年もの年月をかけて、村人たちと力を合わせ、ついに水路を完成させました。おかげで、田畑はゆたかになりました。

古田さんのおかげで、今もこの地方の田畑は、ゆたかに実っています。わたしたちの町には、古田さんの働きをたたえる、いしぶみが建てられています。

メモのれい

きょう土のいじん・古田せんいちさん

時代：明治のはじめ（今から百五十年ほど前）

できごと：雨が少なく田畑の水不足→米がとれない

したこと：遠くの川から水路を引く（十年）→田畑がゆたかに／いしぶみが建つ

こたえと かいせつ

(1) 百五十年ほど前（明治のはじめ）

「明治のはじめ、今から百五十年ほど前のことです」の部分です。年代は落とさずにメモします。

(2) (遠くの川から水を引く) 長い水路

「遠くの川から水を引く、長い水路を作ることを考えました」と言っていました。

(3) ウ (十年)

「十年もの年月をかけて…ついに水路を完成させました」と言っていました。

(4) (例) 水路は、今も使われていますか。／いしぶみは、どこにありますか。

古田さんの話に関係する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。